

## 三浦市立初声中学校

研究テーマ：主体的に学ぶ子 ～主体的な学びへつながる授業づくりを目指して～

### 1 実践の目的

今年度は次の2点に重点を置き研究を進めた。

#### (1) 道徳教育の推進

本校は令和5、6年度の湘三地区道徳教育実践推進校になったことを受け、生徒が「主体的に考え、議論する」道徳を目指し研究を進めた。

研究を進めるにあたって、道徳について教員にアンケートを実施した。その結果、授業の「手法」についての困り感・課題が多いため「手法」について検討した。

#### (2) 研究組織の編成

道徳だけでなく各教科や行事などでも生徒の主体性を伸ばす取り組みを続けるため3つの研究部に分け研究を進めた。また、各分掌の会議の見直しも含め、新たな枠組みを検討した。

### 2 実践の内容

#### (1) 道徳教育の推進

##### ①ローテーション授業の実施

道徳担当や担任だけでなく、全教員が授業に携わり、指導案検討から互いに見合うことで、より効果的な「手法」について検討した。一定期間、各学年の中でグループを組み、学年やグループ単位で指導案検討や授業の実践を行った。

##### ②手法に着目した研究授業の実施

効果的な「手法」を検証するため、同じ教材に対して、「異なる手法」で授業の実践を試みた。

#### (2) 研究組織の編成

研究部を次の3つに編成した。

##### ① 道徳部

重点目標である道徳推進の研究を進める。

##### ② 学習指導部

各教科の授業力向上、指導と評価の一体化に向けて研究を進める。

##### ③ 特別活動部

生徒会や行事などで生徒が主体的に行動できるような活動を研究していく。

今年度は①③で協力し、生徒会主体の「ピンクシャツ運動」と「ボッチャ大会」を実施した。

### 3 実践の成果

#### (1) 道徳教育の推進

##### ①ローテーション授業の実施

ローテーション授業を実施したことで道徳担当や担任だけでなく、全教員が道徳について検討する機会を作ることができた。ローテーション授業以外の道徳でも教員間のコミュニケーションが増えた。

校内研究会にて授業実践をもとに「手法」について検討した。「導入でのイメージの持たせ方」、「議論ではなく意見交換で終わってしまう」という課題が挙がり、研究授業で検証した。

##### ②手法に着目した研究授業の実施

ローテーション授業での課題を踏まえ、1・2年生でそれぞれ同一教材を異なる手法で研究授業を実施した。第1学年では教科書の「ごみ箱をもっと増やして」を教材と

して、A「導入段階で主発問を提示して、目的を明確化する」手法とB「導入段階で教材以外の事例を多く紹介する」手法を実践した。

両クラス共通して、展開後段で「誰もが過ごしやすい社会」について生徒に考えてもらったが、手法Bの方が教材以外で提示した事例も踏まえた考えを持った生徒も見られ、より考えが深まっていた。

教材によっては、その教材以外のことを提示することでより考えが深まり、効果的であることが分かった。

## (2) 研究組織再編

道徳部と特別活動部の連携により、生徒が主体となった活動を実施することができた。

### ①ピンクシャツ運動

生徒会主催でピンクシャツ運動を開始。生徒会のメンバーが各教室で趣旨を説明し、クラスごとにデザインを考え、投票によってデザインが決定した。



図1 決定したデザインのピンクTシャツ

### ②ポッチャ大会

「共存」をテーマに生徒会のメンバーが各クラスで授業を実施した。その後、ポッチャ大会に向けて、ボールづくりから始め、練習を行い、全校でのポッチャ大会を実施した。



図2 生徒会による授業



図3 ポッチャ大会

①②の活動を通して、クラスでの話し合いや学年間の交流の機会を作ることができた。生徒会のメンバーや3年生がリーダーシップを発揮し、積極的に行動する姿が見られ、生徒の「主体性」を育む活動となった。

## 4 今後の展開

### (1) 道徳教育の推進

引き続き、生徒が主体的に考え議論する道徳を目指し「手法」を検討していく。内容項目・教材によって、より効果的な手法が考えられるため実践を増やしていく。

### (2) 研究組織の編成

担当者の負担など運営面での課題を解決しつつ、各研究部で取り組みを検討し、教育活動全体を通して生徒の「主体性」を育むことを目指す。